

第58回「市民の皆さんとランチで対話」の概要

団体名	能代の観光振興に関するワーキンググループ
開催日時	平成24年2月16日(木) 正午～午後1時30分
開催場所	市長応接室
出席者	能代の観光振興に関するワーキンググループの皆さん(能代市：市長ほか4人)
案件	秋田デスティネーションキャンペーンに向けた取り組みなど
会議の概要	<p>市長との対話内容</p> <p>佐々木昇さん「白神山地遺産登録20周年に向けた記念事業について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白神山地が世界遺産に登録されてから、来年で20年になる。この登録20周年を機会に、白神山地との「共存・共栄」はどうあるべきか、遺産登録はどんな意味を持っているのかを再度考え、次世代に伝える「自然遺産サミット」や「シンポジウム」を能代市で開催してほしい。単なるお祭り騒ぎではなく、白神山地の秋田県側の要であるという姿勢を持ってほしい。開催にあたり、官民学によるプロジェクトを立ち上げ、国や秋田県・青森県にも参入してほしいし、屋久島などからも関係者に参加していただき、諸問題を持ち寄り、検討する場も必要。 ・今年からプレDCが始まる。白神山地を探访できるオプションルコースを設けて、宿泊やお土産、ガイドなどで経済波及効果に繋がるよう、市主導型で専従職員がいる窓口を設けて進めてほしい。 <p>市長 20周年記念事業というのは良いこと。他市町村や関係機関が多いので、横の連携も必要になる。20周年をきっかけに、白神に対する意識を高め、環境を守り、維持活用する議論をしっかり持ちたい。きついのは、専従職員。仕事は、権限移譲で国県から市に来るが、職員は減っているし、今後も減らさないといけない。市では可能な限り民間活力を生かした委託や指定管理で仕事を分散させているが、どうしても離せない業務があり、職員が足りない状況。その中で、どのように進めるのがいいのかを検討してみたい。</p> <p>佐々木さん 皇太子殿下は山好きだが、白神に登っていないので、お越し頂ければ。2005年に弘前市と西目屋村で世界自然遺産会議があったときには、秋篠宮ご夫婦が来られたので。</p> <p>荒谷幸雄さん「白神を軸にした地域おこしについて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は趣味で写真撮影をする。白神山地の麓で暮らしているという実感がもっとあれば、世界遺産の誇りや大切さも理解できてくると思う。 ・白神山地に接する「ふたつ白神郷土の森」と大柄を結ぶ林道を整備してはどうか。大柄、種梅は広葉樹も多いため、新緑や紅葉の景観を楽しめる。一日がかりのドライブコースになると思う。 <p>市長 観光道路ではなく、林道としてとらえたとき、伐採計画が伴わないと作業道を通せない。可能性があるとする、東北電力が火力発電にチップを入れて混焼させることを始める。能代の材料でと言ってもらっているので、林業の活性化や山の手入れの良い機会になると思っている。木を切り出すときに林道を通すこと</p>

があるかもしれない。

常盤の奥にも、白神山地や大館まで見渡せる場所がある。そのような場所にふれてもらうことも大事。

菊池文子さん「観光的視点からの能代の食文化の発信について」

- ・能代の「豚なんこつ」を商標登録してほしい。秋田駅前に「秋田豚なんこつ」として売り出している店がある。能代のローカルフードを守ってほしい。ここでしか食べられないというプレミアムで、能代をアピールしてほしい。
- ・鶴形牛はA5ランクで品質が良いが、この辺で食べることができる店が少ない。生産量が少ないことも原因。市がテコ入れしてほしい。

市長 おそらく、東北以北で、ほとんどの豚なんこつの90%以上は能代で消費されている。守ることは大事。

- ・鶴形牛については、朝場畜産さんに制度資金等で応援しているし、大事なブランドだと思っている。

淡路敏明さん「デステネーションキャンペーンに向けた能代の取組みについて」

- ・DCにより入ってくる観光客は、こまちで来ると思う。県南や中央部で、かなりキャンペーンを展開すると思われ、能代は置き去りになるのではないかと。能代は、五能線リゾートしらかみで青森県側から入ってくる観光客にとって、秋田県の玄関口となるので、その意識を。秋田DCは深浦町なども入るので、八峰町と連携を図り、秋田県の入り口として、十二湖の観光客が能代で宿泊するようなプランを作ってほしい。八峰町と能代市で役割分担して、能代山本エリアに観光客が増える取組みを。
- ・五能線の観光客は、JRのパンフ「五能線の旅」を見ている。そのパンフに、魅力的な観光情報をもっと詰め込まないといけない。

市長 DCは良いチャンス。大事なものは、能代を訪れた観光客に何をみせ、良い印象を残してもらえるかだと思っている。広域全体で観光に取り組みたかったが、まず自分の町の取組みを進めている状態。私たちの売りは白神山地と五能線。北から来る観光客は十二湖周辺を観光してまた青森側に戻ってしまう。能代に来てもらうためには、私たちが能代のこれを見て欲しい、ここがすばらしいという意識と自信を持たなければ。夕焼け、白神のパノラマ、米代川、秋田杉など、素材はあるので、五能線の観光客には、駅から先のアクセスを考える必要もある。駅の近くであれば、二ツ井のように自転車もありだが。

秋田デステネーションキャンペーンについて

秋田DCを推進する母体として、秋田県内と弘前市、鱒ヶ沢町、深浦町を含めた111の団体が参加し、キャンペーン活動などを展開する。実施期間は、平成25年10月1日～12月31日まで。能代市による五能線を活用した観光PRは、これまでの取組みに加え、能代駅前に観光案内所を開設し、頻りに能代駅で観光客の出迎えを行う予定。

市長 日本一、世界一でなくても、能代でなければできないものと組み合わせた観光メニューづくりを。例えば、木工品づくりと白神見学を合わせるなど。複合的な観光メニューを進めたい。

淡路さん 宿泊してもらうためには、夜の食事や名物づくりに工夫も必要。

伊藤寿哉さん「木材を使った新たな土産品開発について」

- ・私がお菓子を作っているが、大変なのはお土産品。能代は木材のまちなので、木

に関連した商品も作るが、商品としては成り立たない。特に、若い世代は、能代が木材産業で成り立ってきたという意識が薄いからかもしれない。

- ・お土産品は、地元の人が買っている商品が強い。ワーキンググループの中に、木材産業の人がいるので、木工品とお菓子のコラボを話し合っている。

後藤さん ワーキングのメンバーに、木材加工に関わっている人がいて、その方と話し合っているなかの一例で、東京では、プレミアムがついたチョコレートは300円では売れないが、3,000円だと飛ぶように売れたということがあった。それだったら、木都のしろでは、木で高級感のある箱を作り、その中に木の香りがするチョコレートを入れたらどうか、チョコの上にブナの実をのせてあげたらどうかなどのアイデアが出た。

市長 木の名刺入れを使っているが、値段は少々高い。高く売れるものに木を使うのは良い発想。お菓子のほかに、納豆やお酒などが詰め合わせになった「まるごと能代」みたいなお土産品があれば、県外にも売りやすいのでは。

後藤千春さん「大型観光キャンペーンへの具体的イベントについて」

- ・この秋のプレDCに合わせるとすると、新年度の5月までに旅行商品を形にしなければいけないという切羽詰まり感を感じている。共通のテーマを持った観光資源を早急に取りまとめた方がいい。ワーキングにはJRも参加してもらっているので、DCの一つで、五能線にレトロ列車を走らせたいと伝えたが、JRは、DCは地元の熱意が何より欲しいという。地元が望んでいるのか、地元がどれだけ関わるかが見えないと、JRも動きづらいとのこと。
- ・「能代の一番」も集まってきたと思うので、形にしていければと思っている。きみまち阪の秋冬の朝霧は、大館能代空港にとっては迷惑物かもしれないが、非常にきれいな景観。これを観光資源とし、午前7時までしか見れない風景として売り出せば、見たい人は前日から宿泊すると思う。
- ・東能代駅前は寂しい。陸路は本線上の東能代駅が玄関口になるので、期間限定のチャレンジショップ的なお店を設置し、観光客をおもてなししてはどうか。

淡路さん リゾートしらかみの停車時間も、東能代駅の方が長い。

市長 行政がやるより効果が期待できるものは民間の受け皿にお願いしたいと思っている。市民も団体も行政もバカになって走らないと観光行政は進まない。無いものねだりしてもしようがない。今あるものを活用し、認め、価値観を見出して、知恵を出して売ることが大事。

後藤さん 県のワークショップでも言っていることだが、情報の共有を。行政が考えていることを、関係団体とすり合わせしてほしい。お互いが別々の方向を向いているのはもったいない。DCなりの差し迫った目標に対して、情報の共有化が大事では。

市長 観光協会を作り直しているが、話を進めるためには、行政が考えている企画などを見てもらえるような場がなければ。いろいろな団体の皆さんと意見を交わしながら進めることが大事。できること、できないことはあるが、このような場を持たないと結局は前に進まないで、下準備ができるところまで市で作りあげ、このような場で意見交換し、形にまとめる手法で行きたい。